

社会資本総合整備計画(第3回)

揖保川山崎流域地区都市再生整備計画

平成 2 7 年 8 月

兵庫県 宍粟市

都市再生整備計画(第3回変更)

い ぼ が わ や ま さ き り ゅ う い き
揖保川山崎流域地区

ひょうご しそうし
兵庫県 宍粟市

平成27年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ひょうごけん 兵庫県	市町村名	しやうし 宍粟市	地区名	いばがわやまきりかさい 揖保川山崎流域地区	面積	323.0 ha
計画期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度				

目標	いのちをつなぐ揖保川共生空間の創造	目標① 地域をつなぐ共生空間の創造 【地域コミュニティの活性化と地域間交流の促進】
		目標② 世代をつなぐ共生空間の創造 【世代間交流と環境教育の充実】
		目標③ 生態系をつなぐ共生空間の創造 【生物多様性の保全と持続可能な活用】

目標設定の根拠	まちづくりの経緯及び現況
	<p>■ 宍粟市は兵庫県中西部に位置し、平成17年4月1日に旧山崎町、一宮町、波賀町、千種町の4町合併により誕生した。北は養父市・鳥取県、東は朝来市・神河町、南は姫路市・たつの市、西は佐用町・岡山県と接しており、京阪神と中国地方を結ぶ中国自動車道と、山陽と山陰を結ぶ国道29号線が交差する交通の要衝となっている。市の中心部から神戸までが約100km、大阪までが約140kmの位置関係にある。</p> <p>■ 昔から旧4町は揖保川の川筋に沿って一体的な経済圏を形成してきた。その中でも最南部に位置する旧山崎町は北部3町と、竜野・網干といった下流の地域とを結ぶ要の役割を担っており、現存する高瀬舟の船着場跡はかつて揖保川が物流や人々の交流を支えていた時代の名残を残している。また、この区間には「大鮎の釣れる川」、「友釣り発祥の地」として全国的に知られる鮎釣りの名所であり、周辺には「大歳神社の千年藤」、「播州山崎花菖蒲園」や紅葉の名所として知られる「最上山公園」、酒蔵や町並みに城下町向けの風情が残る「旧山崎市街地」など多くの観光資源が点在し、揖保川を中心に発展してきたこの地域ならではの歴史的・文化的背景が伺える。</p> <p>■ 揖保川本流は絶滅危惧種のおやニラミヤ清流の代表魚カワヨシノボリが生息し、サツキマスの遡上がみられる。支流は天然記念物のオオサンショウウオやカスミサンショウウオなど希少な両生類の棲家にもなっている。また、これらを捕食するミサゴやヤマセミなどの鳥類の飛来も見られ、流域全体が一体的に多様な生物を育む命の源となっている。</p> <p>■ 旧山崎町ではこのような河川環境の保全とまちづくりへの利活用をはかるため、清流ルネッサンス21及び清流ルネッサンスⅡ事業に関連して、河川に隣接する地域活動の拠点・観光情報の発信拠点として「道の駅山崎・せせらぎ公園」や「夢公園」の整備を行った。また、平成16年には“次世代につなぐ川づくり”を基本理念とする「揖保川利活用基本構想」を策定し、その具体の整備計画として合併後の平成20年に「揖保川水辺プラザ整備計画」を策定した。また、平成21年には「かわまちづくり支援制度」の創設を受けて、同区域を対象とする「今宿・中広瀬地区かわまちづくり計画」を策定し、同年5月、国土交通省より計画認定を受けた。</p> <p>■ 平成23年2月現在、「今宿・中広瀬地区かわまちづくり計画」に沿って、国土交通省による護岸の改修が進められている。</p>
課題	<p>■ 「今宿・中広瀬地区かわまちづくり計画」の着実な推進と整備範囲の拡大 「今宿・中広瀬地区かわまちづくり計画」は、護岸の改修により周辺地域の暮らしの安全を守るとともに、親水公園の整備により人々が地域の自然や歴史文化の魅力とその価値に気づき、宍粟市総合計画の基本理念「人と自然が輝き、みんなで創る夢のまち」につなげることを目的とするものであり、着実な推進が求められる。また、本計画の整備区間を核として、一体的な生態系をなす揖保川流域全体の環境保全と防災対策の両立が図られ、多様な生物と人が川を共有しながら共に生きる『揖保川共生空間』の創造に向けて、ソフト・ハードの両面から条件整備を進める必要がある。</p> <p>■ 神野地区及び河東地区における交流拠点の整備 旧山崎町域の揖保川本流沿いには旧村の区分を基本とした5つの地区(小学校区)がある。「かわまちづくり計画」の実施区域を含む山崎地区、その下流にあたる城下地区、戸原地区にはこれまでに地区公園等が整備されており、各小学校の環境教育・校外活動のフィールドや地域の憩いの場として、その役割を果たしている。しかし神野地区及び河東地区(以下、「神河地区」という。)には、新たな宅地造成等により子育て世帯の増加が見られるにも関わらず、そのような公園が整備されておらず、環境教育の実施条件や地域コミュニティの醸成環境に格差が生じている。また、神河地区には昭和63年に廃校となった旧神河中学校の跡地が残されており、その有効活用について地元から熱い要望が寄せられている。</p> <p>■ 揖保川における生物多様性の実態把握と保全・活用の担い手づくり 揖保川には前述のように希少な動植物の生息が確認されているが、本区域におけるこれまでの調査や保全活動の中では、行政、市民、環境団体、ボランティア、事業者、研究機関等といった多様な主体の連携がはかられておらず、まとまったデータに乏しいことから、その実態把握にはさらに踏み込んだ取り組みが必要となっている。また、地域において生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取組を推進するためには、地域住民が身近な自然環境の魅力や価値に気づき、それを保全しようとする作用が働く仕組みづくりが欠かせないことから、その担い手育成に向けて環境教育の充実や、地域コミュニティの活性化が求められる。</p>
将来ビジョン(中長期)	<p>■ 宍粟市総合計画では基本計画に六つの柱を設けており、本事業はそのうちの二つめ「母なる恵みの川を活かした空間づくり」に位置づけている。また、宍粟市環境基本計画では個別施策として「4 生物多様性の確保」、「6 水環境の保全と創造」、「15 美しく個性のある景観づくり」などを掲げ、具体的取組へとつなげている。</p>

目標を定量化する指標								
	指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
	神河中学校跡地の利用者数	人/日	地域行事やレクリエーション等で神河中学校跡地を利用する人の数(1日当たりの平均利用者数)	神河中学校跡地を地域の憩いの場とし、地域の行事やレクリエーション等で活用することにより、【地域コミュニティの活性化と地域間交流の促進】に資する。	16	H22	30	H27
	地域における教育活動への参加割合	%	地域において環境教育・環境保全活動や伝統文化の伝承、スポーツ・レクリエーションなど子どもたちの活動に関わっている市民の割合。	地域の伝統や文化を伝承すると共に、自然環境の保全の担い手を育成するため、地域総がかりで子供たちに関わることにより、【世代間交流と環境教育の充実】をめざす。	32.9	H22	44.0	H27
	川の生きもの調査を実施する小学校数	校	教育活動の中で水生生物、野鳥や植物など川の生きものに関する調査を実施する市内小学校の数。	地域の生態系の中心である川の生きものを調査することにより、子どもたちに地域の自然の魅力や大切さへの気づきを促し、【生物多様性の保全と持続可能な活用】へとつなげる。	1	H22	9	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針①【地域コミュニティの活性化と地域間交流の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の憩いの場として「(仮称)神河緑地公園」を整備し、神河地区における地域コミュニティの醸成の場として活用をはかる。 ■ 山崎地区の「今宿・中広瀬地区かわまちづくり計画」区域に親水広場を整備し、市全体の観光イベントや地域間交流の中心拠点として活用をはかる。 ■ 「(仮称)神河緑地公園」、「夢公園」、「(仮称)かわまちづくり親水広場」等の関連施設のネットワーク化をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「(仮称)神河緑地公園」の整備(基幹事業/公園) ■ 「(仮称)かわまちづくり親水広場」の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ■ 市道岸田4号線の拡幅改修(基幹事業/道路)
<p>整備方針②【世代間交流と環境教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の憩いの場として「(仮称)神河緑地公園」を整備し、神河地区における世代間交流の場として活用をはかる。 ■ 山崎地区の「今宿・中広瀬地区かわまちづくり計画」区域に親水広場を整備し、地域の歴史的背景を紹介するとともに、市全体の環境教育の中心拠点として活用をはかる。 ■ 「(仮称)神河緑地公園」、「夢公園」、「(仮称)かわまちづくり親水広場」等の関連施設と学校園との安全で円滑な接続をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「(仮称)神河緑地公園」の整備(基幹事業/公園) ■ 「(仮称)かわまちづくり親水広場」の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ■ 市道岸田4号線の拡幅改修(基幹事業/道路)
<p>整備方針③【生物多様性の保全と持続可能な活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の憩いの場として「(仮称)神河緑地公園」を整備し、揖保川生態系の一部が学べる環境教育フィールドとして活用をはかる。 ■ 山崎地区の「今宿・中広瀬地区かわまちづくり計画」区域に親水広場を整備し、市全体の環境保全活動の中心拠点として活用をはかる。 ■ 「(仮称)神河緑地公園」、「夢公園」、「(仮称)かわまちづくり親水広場」等の関連施設間を移動しながら、揖保川の自然観察ができるルートを確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「(仮称)神河緑地公園」の整備(基幹事業/公園) ■ 「(仮称)かわまちづくり親水広場」の整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ■ 市道岸田4号線の拡幅改修(基幹事業/道路)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の熟度 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は平成16年度に旧山崎町が策定した「揖保川利活用基本構想」から引き続くものであり、この間、国県や地元との協議を重ねており、事業の熟度は高い。 ■ 地元の熱意 <ul style="list-style-type: none"> ・山崎町今宿・中広瀬地区は過去の水害で浸水を繰り返しており、近年では平成16年、21年の災害で床上浸水を経験していることから、今回の「今宿・中広瀬地区かわまちづくり計画」事業に寄せる期待は非常に大きい。 ・神野地区、河東地区においては神河中学校跡地の利活用が20年来の懸案となっており、当初予定されていた保健福祉センターの建設が合併や行財政改革の影響で実施困難となった経緯もあり、公園整備に際しては並々ならぬ思いが寄せられている。 ・市内の各小学校では、市単独事業として小学校4年生が地域の自然や歴史・文化に触れる「ふるさとしそ探検隊事業」を実施しているほか、市内の地域地蔵を活用して小学校5年生の「自然学校推進事業」を実施するなど、環境教育、自然体験、地域学習等に積極的に取り組んでおり、これらの学習のフィールドとなる公園や河川環境、自然観察ルートの整備に関するニーズは高い。 ■ 事業終了後の継続的なまちづくり活動 <ul style="list-style-type: none"> ・事業終了後は市民・事業者・環境団体・研究機関・NPO・行政など多様な主体が連携して、地域の自然環境の魅力や価値を再発見し、森のゼロエミッションやエコツーリズムなどの手法を活用しながら、人と自然が共生する持続可能な循環型社会の形成をめざす。 	